

人吉高等学校五木分校 令和元年度(2019年度)学校評価表

1 学校教育目標
<p>ア 本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人間の育成を図る。</p> <p>イ 豊かな自然環境の中で、豊かな人間性と健康な体を育み、自信と誇りをもった澁刺とした生徒の育成を図る。</p> <p>ウ 小規模校としての特長を最大限に生かし、生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、特色ある学校づくりを実践する。</p>

2 本年度の重点目標
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改革に取り組み、基礎学力の充実を図る。 2 生徒指導の徹底を図り、基本的な生活習慣の確立を図る。 3 進路指導の充実を図る。 4 多様な生徒への対応に努める。 5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。 6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

3 自己評価総括表						
評価項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実。 ・分校ニュースの年11回の発行。 ・「開かれた学校」を地域へ展開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを週3回以上更新し、12月にはアクセス数が一日平均60を超す。 ・生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースを毎月保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校評議員へ配付とホームページへの掲載。 ・学校行事等を地域へ発信。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一年をとおして、ホームページの更新及び充実を図った結果、アクセス数が1月中旬現在130件ほどある。 ・内容の充実した分校ニュースを毎月発行し、関係者や関係機関に毎月届けることができた。特に中学校へは直接届け、情報交換を図ることもできた。
		ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献のための環境美化活動の実施。 ・地域の交通安全運動の協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施(学期に1回以上、年5回以上を目標)。 ・タッチ運動への参加協力。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画通りに道の駅清掃・学校西側斜面除草・プール横村道除草・村内ごみ拾いを実施した。 ・春秋2回のタッチ運動に生徒会執行部多数のボランティアの参加があった。
		五木秀麗会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会総会、保護者懇談会を通じた連携。 ・保護者の協力を得ながら、運動会等の各種行事の成功。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会役員との密な連絡。 ・日ごろから担任と保護者間の密な連絡・相談等を通し、良好な協力関係の構築。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会との連携により、役員会でも多くの建設的な意見をいただいた。また、保護者からの多大な協力を得て、各種行事を成功させることができた。
		地域に密着した教育活動の	地元保育所・五木東小学校・五木中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・第7回保・小・中・高合同大運動会の円滑な運営と 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元保育所・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体 	A

	充実	校との合同事業の充実	成功。 ・小中学校との交流、合同研修会や行事の充実。	制の構築と連携。本年度は五木中学校が担当校。 ・救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。		種の先生方の協力により短縮プログラムで実施できた。 ・初めて長距離走大会も小中高合同開催し、地域に密着した取組となった。
		地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保	・職員の中学校訪問の取組の充実。 ・令和2年度入学人数2桁を目標。	・全職員で各中学校との連絡体制を密にする取組の展開。 ・学校説明会や体験入学の充実とマスコミ等を活用したPR活動の推進。	A	・中学校との合同の租税教室や長距離走大会等を実施し、連携の強化が行えた。 ・主要な学校行事に関してはマスコミへの取材を促すことができた。また、若っ人ランドをはじめTV取材も2件とPRの充実が図れた。
		五木村関係機関や団体との連携と行事等への協力	・警察と連携した交通安全指導等への参加。 ・消防署と連携し救急法講習や防災教育の実施。 ・分校独自の教育活動の展開。 ・年に10週あいさつ運動の実施。	・五木村で行われる交通安全運動、社会福祉協議会主催の福祉祭、駅伝大会等への生徒会を中心とした積極的な参加。 ・中学校との連携を密に図り、関係機関との調整を円滑に実施。 ・地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を構築。	A	・行事実施のための企画・立案から計画通り生徒会を中心とした活動ができた。 ・救急法講習や防災教育では、中学校や関係機関との十分な連携を図り、効果的な講習会が開催できた。 ・あいさつ運動は主体的な活動ができ、五木村活性化の一翼を担った。
学力向上	教育課程	教育課程の検討実施	・新教育課程の編成・実施と検討。 ・社会に開かれた教育課程、カリキュラムマネジメントにおける教科横断的授業の検討。	・教育課程検討委員会を実施し将来のビジョンに関する検討と進路指導體制の強化。 ・進路指導と連携した職業教育の指導計画の推進。	B	・教育課程検討委員会を開催するとともに、新学習指導要領に関する職員研修を実施し、新教育課程の編成・実施を検討することができた。 ・授業改革委員会を新たに設置し、進路指導部と連携した職業教育の指導計画を推進することができた。
	基礎学力の定着	学校設定科目「ステップアップ」の充実	生徒間の競争意識の高揚を図り、以下のような昇級を目指す。 1年・7段階昇級 2年・6段階昇級 3年・5段階昇級	・全学年を3段階の習熟度別グループに分けTTによるきめ細かい指導を行い、振り返り学修を適宜導入する。 ・教務部会において問題の難易度等の見直し。	B	・生徒の学力差のため各学年の目標とした昇段数は完全に達成されたわけではないが、生徒間の競争意識の高揚を図ることはできた。 ・数学の問題を中心に次年度に向けて難易度や形式の見直しを行う予定である。
	授業の充実	家庭学習時間の確保	・各教科の課題（「日々の課題」等）の未提出者0。 ・考査前の学習時	・未提出者一覧が分かるようなシステムの構築と、教科担当と担任との連携の深化。	C	・課題未提出者に対しては教科担当と担任が連携し、提出を促すことができた。

			間(1日平均)を一年生は1時間半、二年生は2時間、三年生は2時間半を目標とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じ基礎学力向上を目指した質と量の課題の作成。 ・考查前学習会を有効に使い、学習時間の確保。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が進捗状況を自分で判断しつつ、自主的に課題に取り組めるようなシステムの構築が課題となる。 ・考查前の学習時間(1日平均)は次の通りとなった。一年生…90分、二年生…130分、三年生…141分。
		「達成感のある授業」の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業の質を高める。 ・生徒の学力に応じた授業の工夫と個別指導を充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の研究授業週間の設定により、授業改革を目指し授業力の向上を図る。 ・各定期考查前学習会の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間において年2回の研究授業を予定通り行い、教科の枠を超えて授業の質を高めることができた。 ・定期考查前学習会で教科ごとに個別指導を行い、生徒の理解力を高めた。
		授業時間の確保	授業の自習をゼロにする。	出張時の授業変更を確実に実施。	A	職員の共通理解と連携により、授業変更を確実に実施したことで、授業の自習をゼロにできた。
		研究授業の実施と研究会・研修会への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の年2回の実施。 ・校外の研修会への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業後の合評会の充実。 ・各種研修会への積極的な参加を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の枠を超え、研究授業後に合評会を実施することができた。 ・全職員が教科に係る研修会や公開授業等に1回以上は参加することができた。
キャリア教育	キャリア教育の充実	キャリアガイダンスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による進路学習の機会を積極的に図る。 ・体験学習や外部における説明会等を取り入れた職業教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学、就職への講話や、社会生活に向けた学習の実施。 ・地域の人的資源、物的資源の発掘とその活用に向けた教科横断的な指導計画の作成。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生対象の進路ガイダンス・新社会人セミナーを実施することができた。 ・新たな取組(保育実習やコミュニケーション講座、林業体験学習)など充実を図ることができた。
		インターンシップによる就労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望や適性に合ったインターンシップ先の選定。 ・事前・事後指導の充実した活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生において職業興味検査の実施と、進路学習において仕事や資格を調べる機会の設定。 ・インターンシップ報告会の実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で職業興味検査を行い、適性を調べる機会をつくることができた。 ・2年生で3日間インターンシップを行い、初めて文化祭で報告会を行えた。
		「総合的な学習の時間」及び「総合的な探求の時間」における系統的な進路学習と体験学習の充	<ul style="list-style-type: none"> ・協働体験学習を充実させ社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働体験学習は生徒が主体性を持って取り組めるように上級生と下級生を混ぜた縦割り班で実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期は農作業、2学期は大凧製作を通して、2・3年生が1年生をリードする協働体験学習の充実を図れた。 ・探究につながる系統的な進路学習に検討

		実				の余地がある。	
	個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	・進路希望の100%達成。	・進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた課外や面接指導の実施。 ・関係諸機関との連携を図るとともに、個別指導の充実。	A	・個別面談を適宜実施し、進路指導及び面接指導を充実させることができた。 ・進路目標を100%達成することができた。	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	基本的な生活習慣の確立	・自らの力で生活態度を向上させる態度の育成。	・「学習・生活の記録」の毎日の提出。 ・気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。	B	・学習・生活の記録により家庭の様子を理解し、面談や家庭訪問等を通じて活用することができた。 ・家庭での基本的な生活習慣を育ませ、さらに自立心を養わせる必要がある。	
		規範意識の高揚	・生徒会行事や学級活動等での集団での行動や月例会講話を通して、規律ある行動ができる集団の育成。	・交通安全指導、整容や言葉遣い指導等を通して規範意識の向上とマナー、モラルの育成。	B	・整容面での軽微な違反や、級友間での些細なトラブルはあったが、個別に指導することで規範意識の喚起と改善が図れた。 ・他者への影響を考えない言動等は未だ見られるため、継続して指導を行っていく必要がある。	
		家庭との連携	・問題行動、トラブル等を未然に防止する態度の育成。	・アンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等による全職員の生徒の情報共有によりトラブルの未然回避。 ・保護者への啓発を行う場の設定と安心メールの有効活用。	A	・学期1回のアンケートや担任による家庭訪問等で生徒に関する情報共有ができ、トラブルの未然回避や悩みの早期解決に繋がった。 ・学校安心メールの効果的活用で、家庭への迅速な連絡を図ることができた。	
		生徒の主体的活動の充実	主体的な生徒会活動の推進	・全生徒の生徒会活動への参加。	・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例会の生徒会による運営の充実を図る。	B	学校行事等では、責任感を持って企画・運営の係仕事に取り組む姿が数多く見られた。
			部活動の充実	・部活動への積極的な参加。	・部活動における各種競技会等への積極的な参加を促し、日々の活動内容の見直しと目標の明確化。	C	部活動加入率は90%であるが、文化部の活動実態はやや低調であった。バドミントン部は、練習や各種大会にも積極的に参加活動できた。

人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> 各学期1回以上職員研修(生徒理解、特別支援等)の実施。 毎週の運営委員会での生徒の状況報告と実態把握。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を共通理解し指導に生かす。 	A	スクールカウンセラーを講師に招いた職員研修や支援会議等を開催し、生徒への支援や共通理解を深めた。また、就職支援にも繋ぐことができた。
		生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 各行事を通して生徒の自尊感情の定着と互いを認め合うことのできる育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年毎にテーマを設定し、わかりやすい授業実践。 学校行事では、生徒全員が互いに協力してつくりあげる取組を重視した計画を立て、全職員で支援にあたる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保小中高合同運動会やボランティア活動等をとおして、責任感やリーダーシップを養うことができた。 他学年や異校種との交流活動の機会を設定し、各所で互いを思いやり、協調して活動する姿が見られた。
	「命を大切にすることを育む指導」	取組をとおした生命の尊厳並びに他者の価値観を尊重する自尊感情の育成	<ul style="list-style-type: none"> 指導プログラムを作成し、各学期「命を大切にすることを育む授業」やLHRの実施。 月例集会講話等で思いやりの心や強い心の醸成。 ボランティア活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科科目の授業で「命を大切にすることを育む」についての授業を行い、職員も参観する。 LHR、総合的な学習の時間や月例集会等を活用し、日頃から「思いやりの心」について講話を行う。 ボランティア活動による自己有用感の深化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各教科において「命を大切にすることを育む」観点で授業を実施したが、全職員が参加できるまでには至らなかった。 月例集会等において、人権や健康に関すること、思いやりの心や強い心を育むこと等、本校職員の講話を毎回盛り込み有意義な集会が実施できた。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の着実な推進	いじめを許さない心を育む指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> いじめ発生「0」を目指す。 いじめにつながる、学校全体の土壌を作り上げる。 職員間における生徒の情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体指導と個別面談を行い、いじめの未然防止。 月例集会における生活態度等についての注意喚起。 生徒の小さな変化を見逃さず、早期発見や早期対応、早期解決、再発防止のできる体制と環境づくり。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 相談しやすい雰囲気作りに努めたことで、悩みや困り感に対し迅速に対応し、未然防止を図ることができた。 毎学期ごとのいじめアンケート調査では、いじめ件数「ゼロ」であったが、さらに推進していく必要性を感じる。
		生徒の状況把握と迅速な指導体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口の周知と日頃の生徒間の行動観察と情報共有。 年3回の心のアンケートの実施と外部の専門家を活用しいじめ問題対策委員会の毎学期実施。 いじめ防止基本方針の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口を合格者説明会、入学式、1学期始業式、五木秀麗会総会で生徒保護者に周知徹底。 健康相談・教育相談担当、担任の日常観察及び運営委員会報告等、全職員が生徒の変化を掌握した上で適宜対処。 いじめ防止に関する職員研修の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察やいきいき相談等を通じて、生徒の変化の早期発見に努め全職員で対応できた。 外部専門家を交えたいじめ問題対策委員会やソーシャルスキルトレーニングの職員研修の実施により、職員のいじめに対する感性や危機意識の向上に努めた。

地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	防災型コミュニティ・スクールをベースにした防災意識の高揚と地域と一体となった連携体制の構築と総合型へ向けた体制づくり	防災教育の充実	・学校防災年間計画の作成と防災教育の充実。	・生徒の防災意識を高める取組み計画と生徒への地域連携の重要性の意識高揚。	B	中学校と合同で防災講話や防消火避難訓練を実施できたが、今後はさらに生徒の危機意識を高める必要がある。
		地域や関連機関との連携の確立	・五木村教育委員会、消防署、派出所と連携し計画的な協議会の開催。 ・総合型への移行のための体制づくり。	五木村教育委員会、消防署、派出所と連携し、防災拠点として常に活用できるよう準備。 ・地域の保育所、小中学校等をはじめとする五木村との連携状況の把握と活動計画の作成。	B	五木校区学校地域づくり協議会においては、地域の要望を取り入れ連携の強化を図り、計画的な総合型コミュニティ・スクールに移行が進みつつある。
職員研修	職員の資質の向上	・不祥事の根絶 ・人権意識とイじめに対する感性の向上 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改革	・不祥事「0」に向けた規範意識の高揚。 ・人権意識の向上と職員朝会での規範意識の高揚を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりの意識高揚。	・定期的な職員研修と機会を捉えた職員朝会での注意喚起。 ・言語環境を整え、人権意識の高い職場環境への醸成。 ・公開授業や研究授業に向けた研修等の実施と研究会等への積極的な参加。	A	・職員研修においては定期的な研修や職員朝会時を活用した研修をタイムリーに実施することができ、効果を高めることができた。 ・公開授業週間を2回に増やし、研究授業を実施し、授業改革を進めることができた。

<h4>4 学校関係者評価</h4> <p>(1) 学校経営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五木分校の特色を生かした地域との連携、大変よく取り組まれていると思う。 ・中学校との連携も充実されていることに感謝している。 ・「学校教育目標」「本年度の重点目標」をしっかりと踏まえ、生徒の指導にあたられた様子が覗える。とても良い成果が出ている。特に地域に密着した教育活動A評価は素晴らしい。 ・情報発信、保小中との連携、関係団体との連携への努力がすばらしい。五木村はニュースバリューのあるところ。活動情報を事前に発信してほしい。 ・救急、防災等、学校は地域の要である。高校生がいることは心強い。ボランティア活動は、高齢者、過疎地域を支える活動も求められているのではないかな。 ・ホームページ、分校ニュースなど学校の様子がよくわかり、いつも楽しみにしている。生徒から保護者へ渡されていないことがあるようなので、他の配布物も含めて「あんしんメール」での連絡があるといいと思う。 ・学校行事に先生方が積極的に参加され、厳しい中にも優しさがあふれる生徒指導に感心する。 ・適切である。 <p>(2) 学力向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒が在学するなか、五木分校ならではの少人数のメリットを生かした取組がよくなされていると思う。今後もよろしく願いたい。 ・先生方の授業改善に向けての取組も充実しているようで、私達も負けられないようにしたい。 ・生徒の学力が少しずつでも向上するよう、委員会を立ち上げたりしておられる先生方の日々の努力が感じ取れる。良い評価である。ただ家庭学習時間の確保（予習、復習）の評価が、昨年と比較して大幅に下がっていて残念。生徒達に原因を問う必要があるのではないかな。 ・ステップアップという尺度により、それぞれの目標設定ができるのはいい。それが家庭学習の動機づけになるよう期待する。 ・「ステップアップ」での基礎学力を定着させていただいていると思う。また、生徒に合わせて細かく指導していただいていると思う。進学を希望する生徒へのきめ細かな指導も願いたい。 ・生徒一人一人に合わせて指導されていていい。 ・少し頑張ってください。

(3) キャリア教育（進路指導）について

- ・個別指導面等、個別の対応の充実や、インターンシップ、体験学習の充実など素晴らしいと思う。ぜひ、継続した取組を期待する。
- ・いろいろな取組、個々に合った進路指導をされた結果、100%の進路目標が達成できたことは素晴らしい。
- ・縦割り班はいい。上級生が下級生を指導し、自信につながると思う。
- ・新たな取組が充実していたと思うが、生徒のニーズに合ったものや生徒自身が積極的に取り組んでくれそうなものを取り入れてもらえるとさらに良かったと思う。
- ・いろいろな体験学習をされていていい。
- ・適切である。

(4) 生徒指導について

- ・生徒指導面でも、個別の指導の充実が功を奏しているようで心強く思う。
- ・生徒の主體的な活動については、今後の向上に期待している。
- ・取組は適切である。部活動の活性化に力を入れてほしい。少ない生徒数なので大変だが、よろしくお願ひしたい。
- ・部活動は分校ニュースでもバドミントン以外は記事がない。
- ・文化部は生徒の興味関心に合っていないのか。また、ヒストリアテラスとタイアップ等できないか。
- ・校則が守れていない生徒がいると聞いている。上級生から注意しても先生から注意されてもなかなか守れないそうである。大変かと思うが、ご指導をお願いしたい。
- ・親にもあいさつやお礼を言えるようになった。トラブルなど、家庭にも早い連絡をいただいた。
- ・適切である。

(5) 人権教育の推進について

- ・SNSの普及、コミュニケーション力の低下、自己肯定感の低下等、現代的な課題を考えると、人権教育、命を大切にす教育の充実は、今後も益々望まれることと考える。更なる充実を期待する。
- ・適切な取組がなされている。昨年より評価が上がっており良い結果です。
- ・自己肯定感や自己有用感の低さがみられる。五木村というコミュニティとの連携を活かして、様々な自己実現の場、経験ができるといいなと考える。
- ・先生方が生徒達に寄り添っていただき人権を尊重していただいていると思う。
- ・適切である。

(6) いじめの防止等について

- ・少人数だからこそその難しさもあるかと思うが、よく取り組まれていると思う。
- ・職員のいじめに対する感性や危機意識の向上の取組は、大変よいと思う。外部専門家の活用も素晴らしいと思う。
- ・適切な取組で、特に相談しやすい環境、雰囲気を作られたことは、生徒、そして保護者にとって良かったことと思う。
- ・生徒が相談にのってもらいやすい雰囲気をつくっていただき、ありがたい。コミュニケーションがとりにくい生徒（自分の思っていることを表出できない）の対応は難しいと思うが、適度な距離感で話をしてもらえるようお願いしたい。
- ・迅速な対応をされていると思う。
- ・適切である。

(7) 地域連携（コミュニティ・スクールなど）について

- ・五木校区学校地域づくり協議会の取組は、五木ならではの特色あるところと思う。さらなる充実を期待している。
- ・適切な取組をされている。ただ地域の地形からして、異常降雨時に大きな災害が起こるかもしれない。このような状況でも、即対応できる心構えもされておられると思うが指導をお願いしたい。
- ・コミュニティ・スクールへの移行で学習の幅が広がることを期待する。
- ・五木という地域から積極的な地域参加は大変いいことと思う。

(8) 職員研修について

- ・よく取り組まれていると思う。
- ・適切な取組をされておられる。
- ・職員方の意識向上は良い。私も向上していかないと。
- ・適切である。

(9) その他

- ・地域に根ざした少人数ならではの丁寧で豊かな教育を推進されていることに、中学校関係者として心から感謝している。一方で普通科の高校であることが十分理解されているのか、と思うところが中学校の側（教職員、保護者、生徒）にあるのではという課題も感じている。中学校側もさらに努力していくので、中高の連携をよろしくお願ひしたい。
- ・五木分校ニュースを楽しく読ませてもらっている。生徒達の澁刺とした活動、地域との連携をとおして学んでいる姿が手に取るようにわかる。内容もとても良い。
- ・五木村の高齢化が進んでいるので、体育の授業時に地域の高齢者の体力づくり、体操に参加する。体力づくり筋力づくりについて、そこに来ている運動療法士の話聞くなど。ボランティア活動において高齢者のお手伝い（林、農、生活支援、スマホなど）。文化活動における高齢者の協力、また高齢化する地域の祭りを手伝う。五木村は地域振興に外部人材のいい人がいる。オフィスフィールドノート、ヒストリアテラスを活用、日添に来る若者達との交流などいろいろできる。地域は若い力を求めているので、キャリア教育にもなると思う。五木はいろいろできると思う。
- ・図書室の利用が少なく残念。読みたい本が少ないと聞いているので、本校から学期毎に借りることができればと思う。図書委員会で借りる本を選びに行くと、本校の委員さんとも連携がとれるようになるのではないかなと思う。
- ・全体的に何も問題はないが、若干評価が落ちているのが気になる。次年度は若干上がる努力をしてほしい。五木村に対する国の助成金もだんだん少なくなると思う。そのことが学校にどう影響するのか。あまりにも村の人口が少なくなったのでどう学校経営をしていくのか。環境の変化は五木分校が突出しているので大変だと思う。逆にその中で成果が出れば日本が目にする学校になると思う。大風にも動力を付けるような発想が必要なのかなと思うが、分校の先生方の腕の見せどころである。期待している。

5 総合評価

- (1) 学校経営について
今年度、地元の学校や地域との連携がさらに強化されたことで、評価が高くなっている。また、人吉球磨地区の中学校からの連携も求められており、さらに情報発信を行いながら五木分校の魅力づくりに努めていく必要がある。情報発信はうまく行えた。
- (2) 学力向上について
学校設定科目「ステップアップ」や少人数による個別指導により、本校独自の基礎学力向上対策がなされていると評価は高い。しかし、昨年度の宅習時間の比較からすると、予習・復習の時間が減少していることは課題である。
- (3) キャリア教育（進路指導）について
今年度、保育実習や林業体験学習、また五木村の自然を生かした体験学習を多く取り入れた結果、保護者からも好評であった。今後は、生徒のニーズに合ったものも含めて検討し、実施してことがさらなる発展につながると考える。
- (4) 生徒指導について
年間を通して早期対応を大切にして未然防止に努めた結果、ほとんど生徒指導上の問題が発生しなかった。しかしながら、規範意識の醸成をさらに図る必要は感じている。部活動においては、活性化が求められるところである。
- (5) 人権教育の推進について
アンケートにおいて生徒、保護者、職員の三者のほぼ全員が、人権を尊重した教育活動が推進されていると回答している。ただし、自己肯定感や自己有用感の低さは顕著であり、その対策のための具体的方策を早急に検討し推進していく必要がある。
- (6) いじめ防止等について
年間を通して、いじめの発生はゼロであった。しかしながら、そのために日ごろから職員が情報共有を行いながら、早期に対応するよう努めている。いじめをなくす取組に対する生徒の意識が若干低い点については、次年度に向けて改善していきたい。
- (7) 地域連携（コミュニティ・スクールなど）について
五木村だからこそ、地域連携は大きく広がる可能性を秘めていると周囲の方々も期待しておられる。現在行われている五木校区学校地域づくり協議会を基盤として、さらに連携を図りながら、地域の人材や施設等の活用を求めていくことが大切である。

(8) 職員研修について

年間を通して計画的に職員研修を実施できた。また、講師になった職員や外部の講師が、工夫を凝らした内容で、たいへん充実した研修となった。一斉指導型だけでなく、ワークショップや体験型をさらに取り入れながら、主体的に意識を高める研修が求められる。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営について

【課題】地域において、さらに信頼される学校づくりの推進を図る。

【方策】地域におけるボランティア活動に参加して五木村への貢献や、五木村の人材や資源を活用するための連携を強化する。

(2) 学力向上について

【課題】学習意欲の向上と基礎学力の充実を図る。

【方策】学習の可視化を行い、意欲の向上に努める。また、学びのユニバーサルデザイン化で学習効果の充実を図る。

(3) キャリア教育（進路学習）について

【課題】三年間を見通したキャリア教育の実施計画を見直す。

【方策】地域の人材や施設等の発掘とその活用に向けた教科横断的な指導計画を作成する。

(4) 生徒指導について

【課題】部活動への積極的な参加を推進する。

【方策】外部指導員の活用と文化部活動の充実のために職員の専門性を生かす。

(5) 人権教育の推進について

【課題】自己肯定感と自己有用感の向上を図る。

【方策】人権教育推進委員会で検討しながら、学校全体で取り組んでいくことを目指す。

(6) いじめ防止等について

【課題】いじめをなくす取組の充実を図る。

【方策】生徒たちが自主的に考えていじめをなくす取組を実施する。

(7) 地域連携（コミュニティ・スクールなど）について

【課題】地域の行事に参加できることや地域から協力していただけることを確認する。

【方策】年間行事について、地域の方々と相談する機会をつくる。

(8) 職員研修について

【課題】「主体的、対話的で深い学び」の授業改革の推進が求められる。

【方策】教育センターやスーパーティーチャーの活用を積極的に図り、事前及び事後の研究会の充実を図る。